

名市大病院未来プラン2021

～未来かがやきプラン～

■ 名市大病院未来プラン2021で目指すこと

名古屋市立大学医学部附属病院群（以下、「附属病院群」という）がトップレベルの高度先進医療の市民への提供を行い、超高齢社会において健康長寿を推進するための予防医療や地域包括ケアシステムを深化・推進することで、「なごや医療モデル」を構築し、名古屋都市圏においてリーダーシップを発揮します。また、これらのことを実現するために必須となる優れた医療人の育成や、質の高い医療や研究を提供する組織の構築を行い、さらには、安定した経営基盤の確立を目指していきます。

■ 社会情勢の変化・現状と課題

医療を取り巻く環境は大きな変革期を迎えており、少子高齢化やグローバル化が進展する中で、イノベーションから新たな価値を創造する「Society5.0」の実現に社会が向かっています。さらに新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした新しい生活様式へのパラダイムシフトが起きています。このような問題を打破し、市民を支える病院として勝ち抜くためには、医療・介護・予防・在宅などあらゆるニーズに応じて地域医療に貢献すると共に、附属病院群の更なる連携、救急災害医療・感染症医療を進化・充実させることが必要です。また、専門性・国際性豊かな医療人を育成し、AI・ビッグデータ等の新しい技術の開発や実用化を進め、強みを持つ分野の高度先進医療において、揺るぎない地位を確立する必要があります。

■ 代表的な取り組み

約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供

大学病院としての高度先進医療に加えて、救急・災害医療を強化することによって名古屋市民の幅広い医療ニーズを満たし、名古屋都市圏の医療を牽引するとともに、地域の将来を支える医療人の確保と養成を担います。質の高い医療を市民に提供することで、附属病院群が一体となって、高度かつ安全で開かれた医療を提供し、名古屋都市圏のリーダーとしての立場を確立します。

名市大未来プラン2021 5-(1)

優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。高度かつ安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

臨床研究・治験ネットワークの構築

附属病院群を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築を始めとした臨床研究・治験のための環境を整備するとともに、大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進し、医療技術の開発や研究成果の還元を通じて名古屋市民の健康・福祉・幸福に貢献します。また、外部機関との人材交流を促進し、附属病院群の研究力の強化を目指します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

(1) 約1,800床の病床を活かした医療体制の強化と高度先進医療の提供

大学病院としての高度先進医療に加えて、救急・災害医療を強化することによって名古屋市民の幅広い医療ニーズを満たし、名古屋都市圏の医療を牽引するとともに、地域の将来を支える医療人の確保と養成を担います。

質の高い医療を市民に提供することで、附属病院群が一体となって、高度かつ安全で開かれた医療を提供し、名古屋都市圏のリーダーとしての立場を確立します。

名市大未来プラン2021 5-(1)

【実行項目】

- ①救急・災害医療センターの運用開始に向けた高度先進医療・救急医療の提供体制の確立（2021年度～）
- ②名古屋都市圏最大級の附属病院群の中核として、低侵襲・高難度の手術や難病に対する新しい治療などの高度先進医療の積極的な開発・提供（2021年度～）
- ③附属病院群がそれぞれの特色を強化し、適切な機能分化と医療機能の高度化を図ることによる、市民への質の高い医療の提供（2021年度～）
- ④総合研修センターが主導し、附属病院群の将来を担うヒューマンリズムとアカデミズムにあふれた医師の確保と育成プランの確立（2023年度～）
- ⑤信頼性の高い第三者認証の取得など、国内・国際間競争をはじめとした、様々な医療環境の変化に対応した柔軟かつ効果的な戦略の推進（2021年度～）

(2) 超高齢社会における医療体制の提供と地域医療への貢献

附属病院群が一体となり、急性期から在宅医療に至るまで、医療・介護・福祉・回復期医療・民間医療機関に加えて、行政・教育といった各機関との緊密な連携体制を整備し、「循環型の地域包括ケアシステム」を推進し、「なごや医療モデル」の構築に取り組みます。名古屋市との連携を強化し、少子高齢化・国際化等の医療需要に応えつつ、地域や在宅での症状管理とQOL向上に貢献することにより、治療と予防の両輪をまわし、人生100年時代を生涯現役で過ごせる社会づくりに貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(2)

【実行項目】

- ①地域医療機関からの診療予約の簡便化と附属病院群共通の予約システムの導入（2022年度～）
- ②地域医療連携システム（附属病院群、地域医療機関との電子カルテの共有化または、閲覧機能）の整備や地域連携パスの構築（2022年度～）
- ③コミュニティー・ファーマシスト（かかりつけ薬局等薬剤師）、保健センター、地域包括ケアセンターとの連携も含めた地域連携機能の強化（2021年度～）
- ④専門看護師・認定看護師や資格取得者が中心となった看護外来の機能の強化による、地域や在宅での症状管理とQOL向上への貢献（2022年度～）
- ⑤健康福祉局との連携による介護予防プログラムと未病期からの連携体制の整備（2023年度～）
- ⑥認知症患者に対する包括的支援体制の整備（2023年度～）

(3) 高度先進医療提供のための病院機能の強化

卓越した先端医療を創出して高度先進医療を推進するとともに、臨床研究の活性化に向けて附属病院群全体で積極的なインフラ整備と人材登用を行います。

特に、がん医療の分野では、がんゲノム医療、細胞・免疫療法、支持・緩和医療、高精度放射線療法等を含めたがん治療の研究や、小児・AYA世代をはじめとするがん患者への支援に取り組みます。

また、高齢者医療のニーズに応え、脳卒中・循環器病に対する予防から高度救命治療までのシームレスな医療構築の研究を進めることに加えて、高齢者等の健康長寿に寄与する先進リハビリテーションの開発・発展を図ります。

附属病院群は、高度先進医療提供のための病院機能を強化するとともに、それを支える研究面でも名古屋都市圏のトップを目指します。

名市大未来プラン2021 5-(3)

【実行項目】

- ①臨床研究の活性化を目的とした、附属病院群も含めた全体の統括・支援部門の設立（2022年度～）
- ②支援部門の拡充による臨床研究の推進・活性化と新規医療の開発（2022年度～）
- ③高度先進医療を担う横断的な診療部門・専門外来の設置及び外来診察室の再編成（2022年度～）
- ④がん治療の発展に伴い、細胞・免疫療法の実施に必要な外来化学療法室の増設（拡充）や、がんゲノム医療の提供に特化した人員の配置などの体制整備（2023年度～）
- ⑤小児・AYA世代のがん患者が、安心して治療に専念できるよう、CAYA (childhood, adolescent and young adult)支援部門の設立（2022年度～）
- ⑥がん医療の質を向上・充実はじめ、臨床研究の活性化を図るとともに高度先進医療を推進させるため、PET-CTの設置を検討（2021年度～）
- ⑦膵臓がんなどの難治がんの早期診断を目的とした内視鏡部門の拡充による、がんの治癒率向上への貢献（2024年度～）
- ⑧カテーテルを用いた心血管疾患などの先進的な低侵襲治療の推進（2022年度～）
- ⑨救命救急センター拡充に向けた病院全体の脳卒中初期診療の充実（2022年度～）
- ⑩脳血管内治療センター化に向けた専門医育成と救急医療の推進（2022年度～）
- ⑪ロボットやニューロリハビリテーションなどの最新技術を用いた先進リハビリテーション治療の推進（2022年度～）

(4) 救急・災害医療機能の強化

高齢者人口の増加に伴い増え続けている救急搬送件数に十分対応が可能であることに加えて、新型コロナウイルスの流行や南海トラフ巨大地震発生などの非常事態・災害時には最前線の病院として役割が果たせるように医療機能を強化します。

平常時と非常事態・災害時のバランスを考えた救急・災害医療センターの整備を行い、大学病院として救急災害医療を充実させ、救急災害医療の砦として市民の安心と安全を担います。

また、救急・災害医療機能の強化の基盤となる診療体制の充実と多職種連携を強化するため、消防局を始めとして、名古屋市各局や附属病院群の連携強化を図るとともに、救急・災害医療に強い医療人の育成に努めます。

名市大未来プラン2021 5-(4)

【実行項目】

- ①増加が見込まれる救急搬送件数に対応するための救急医療機能の強化
(2021年度～)
- ②南海トラフ巨大地震発災を想定し、被災傷病者を受け入れるための災害医療機能の強化
(2021年度～)
- ③新型コロナウイルスのパンデミックを想定し、感染患者を受け入れるための感染対策機能の強化
(2021年度～)
- ④診療体制の強化、教育・訓練の実施による、救急・災害医療センターの設備・機能の活用
(2025年度～)
- ⑤消防局など名古屋市関連各局や、附属病院群間の連携による救急・災害医療体制の充実
(2025年度～)
- ⑥救急ワークステーションの設置による救急救命士等への指導・研修体制の充実
(2025年度～)

(5) 優れた医療人の育成と質の高い医療を提供する組織の構築

高度先進医療を実践する高い専門性と倫理観を持ち、名古屋都市圏においてさまざまに活躍できる医療人を育成します。

多様性を活かした働き方の推進と個人を尊重する文化の醸成によって、誇りと愛着を抱くことのできる組織の構築を目指します。

高度かつ安全で質の高い医療を安定して提供できる体制を進化させ、名古屋市民の健康と幸福に貢献します。

名市大未来プラン2021 5-(5)

【実行項目】

- ①名古屋都市圏を担い、かつグローバルな視野を持った医療人育成システムの構築（2023年度～）
- ②看護キャリア支援室（仮称）の開設による、看護の専門性を活かして多様化する医療ニーズに対応できる人材の育成（2022年度～）
- ③医療人の心身の健康を維持しながら自己研鑽や研究時間を確保し、より質の高い医療を提供するための働き方改革の推進（2021年度～）
- ④医師の専門性をさらに発揮するための、多職種によるタスク・シフトの推進（2021年度～）
- ⑤安全な医療の推進を行うために、附属病院群による医療安全に関する活動の統一化、定期的な合同会議開催、課題解決にむけた連携（2021年度～）
- ⑥医療の質の評価に基づいた医療提供を進めるための、医療の質評価室の設立と医療現場での改善活動への取り組み（2023年度～）

(6) ビッグデータ・高度情報技術・ロボット技術の利活用

附属病院群の臨床現場の活用により、それぞれがもつビッグデータを、有効かつ安全に研究・活用できるシステムを構築し、データサイエンス学部（仮称）との連携を始めとした先進的な取り組みを積極的に導入します。

高度情報化を進め、医療教育や研究のための体制を充実させ、高度情報技術・遠隔診療・ロボット技術などを利活用した安全で開かれた先端医療の実現で、日本と世界をリードします。

名市大未来プラン2021 5-(6)

【実行項目】

- ①データサイエンス学部（仮称）との連携により医学系研究の推進と支援体制を構築するとともに、附属病院群の臨床現場も活用した、医療系データサイエンティストをはじめとした人材の育成（2023年度～）
- ②ロボット技術を用いた最新の術式への対応や高度情報技術を用いて附属病院群全体の手術室運営における会議や手術調整などをオンラインで行うなど先進的な取り組みの積極的導入（2021年度～）
- ③ビッグデータを活用し、附属病院群全体として効率的な手術室の運営や、安全な医療提供のための手術合併症に対する安全性評価の導入（2023年度～）

(7) 臨床研究・治験ネットワークの構築

附属病院群を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築を始めとした臨床研究・治験のための環境を整備するとともに、大規模国際臨床研究・医師主導型治験を推進し、医療技術の開発や研究成果の還元を通じて名古屋市民の健康・福祉・幸福に貢献します。また、外部機関との人材交流を促進し、附属病院群の研究力の強化を目指します。

名市大未来プラン2021 5-(7)

【実行項目】

- ①研究シンクタンク機能を持ち、臨床研究を活性化させるため、附属病院群のIRBを統一し、附属病院群を活用した臨床研究・治験ネットワークの構築（2022年度～）
- ②情報やノウハウの共有による臨床研究の推進を目指し、病院や研究機関、国やその関連機関等との人材交流の促進（2023年度～）
- ③臨床研究・治験ネットワークを通じて集積したビッグデータの活用による臨床研究と医薬品等の開発への貢献（2022年度～）
- ④地域の中核的研究機関として、医師主導型治験・大規模国際臨床研究等の推進（2021年度～）
- ⑤革新的医療技術の開発や研究成果の還元を通して、市民の健康維持・安全への貢献（2021年度～）

(8) 安定経営のための経営改革・組織改革の推進

ガバナンスを強化することにより、人員・設備・資金の経営資源を無駄なく活用し収益性を高めます。

外部環境の変化に柔軟に対応し、診療収入の確保や業務の効率化を図り、新たな投資に繋がります。

積極的に継続的な経営改革や組織改革を進め、経営の安定を図ります。

名市大未来プラン2021 5-(8)

【実行項目】

- ①救急・災害医療センターをはじめとする新たな施設を通じて病院全体の収益性を高めることを目指し、組織のスクラップアンドビルドや効果的な人員の配置、設備や資金の積極的かつ大胆な投資の実施（2022年度～）
- ②附属病院群のスケールメリットを活かすとともに、高度先進医療を支える効率的な物流システムや医薬品・材料の算定漏れを防ぐ仕組みの構築と運用（2021年度～）
- ③診療収入の確保、調達事務の効率化及び戦略的な広報の推進を図るための病院経営に関する組織の強化と職員の育成（2021年度～）
- ④附属病院群の牽引役として、先進的で高度な医療を提供するため、先進的で高度な医療機器を先駆的に導入・運用（2021年度～）
- ⑤安定経営と収入確保に資する新たな病院情報システムの構築・運用（2023年度～導入 2025年度～運用）